

# 総括

## 1. 病院の特色

2006 年に回復期リハビリテーション病棟に転換し、リハビリテーション機能の向上を計画的に実施してきた。高齢化における地域の課題を解決すべく、ヘルスケアリンクとして法人全体で医療・福祉サービスを提供し、貴院はそのリンクの回復期を担うように位置付けられている。最新の技術の導入など、地域のリハビリテーションの向上のため、病院、病棟が運営されている。地域リハビリテーション広域支援センターに指定されており、地域のリハビリテーションを支えている。

貴院は回復期リハビリテーション病棟として建てられたわけではないので、施設としてバリアフリーではない部分も見受けられるが、工夫して対応されている。リハビリテーション部門については、リハパークとして外来、通所での利用と併せて整備され、明るく広い訓練室が確保されている。

リハビリテーション科専門医 2 名を始め、十分な量のリハビリテーションを 365 日提供できるスタッフを確保している。また、HAL、3 次元動作解析装置 (VICON)、HONDA アシスト、吊り下げ式歩行器、電気刺激装置など最新設備を導入し、地域へ新たなリハビリテーションを提供している。臨床研究も行い、最新のリハビリテーションとしての発信も行っている。臨床実習などにも力を入れ、急性期や維持期との人事交流も行っており、職場の魅力を高めることで入職者の確保に繋げている。

## 2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

病院・法人の理念・方針に基づき、地域に根付いた病院運営が行われている。リハビリテーション科専門医が 2 名おり、回復期リハビリテーション病棟には、必要な専門職が配置され、歯科衛生士、管理栄養士もチームとして関わり、基本的なケアを適切に行い、多様な障害に対応できる体制をとっている。口腔衛生については、地域の歯科医の協力を仰ぎ、入院早期に適切な歯科治療を行い、口腔衛生、経口摂取の推進などに寄与している。

安全管理については、基本的な事項は適切に行われており、また、急変時の集参訓練なども実施されており、想定される事態への準備を行っている。

基本的なデータ収集はされている。退院後の状況調査なども開始されているので、回復期リハビリテーション病棟の最大のアウトカムである退院後の生活状況を評価し、入院中の訓練内容にフィードバックすることを期待する。

職員の研修や研究活動には、積極的な支援がなされ、専門資格の取得や学会発表の奨励等、様々な支援策が適切に講じられている。

連携室の体制を最近強化しており、営業活動などもできるようになっている。急性期病院とも適切に連携されており、同法人の急性期病院とは法人内の研修会などで常時交流がなされている。紹介の多い脳外科病院とは定期的にカンファレンスを持っており、紹介患者の状況の報告などもできている。退院後の継続的なリハビリテーション支援のために、外来・通所・訪問リハビリテーション等にも取り組み、法人の介護・福祉資源の活用しながら円滑に在宅生活に移行している。

### 3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

医師は、疾病の医学的な評価を行い、合併症を含めリスクについて療法士に説明し、予後予測に基づいて目標設定を行っている。目標設定において、短期目標の設定で達成期限が一部明示できていない部分があるが、おおむね適切に目標を設定し、治療目標を明確にし、チームリーダーの役割を果たしている。臨床研究も含めてスタッフへの指導を行っており、最新技術の導入も積極的に行い、学会での発表もできており、質向上に向けた活動が機能していることは評価できる。

看護・介護職の研修については、体系的に研修計画を作成し実施されている。ミニ学習会、セラピストとの合同研修、院外研修・学会等適切に行われている。法人内での学会や現場介護職員による「わたしたちの介護自慢大会」への発表がある。回復期リハビリテーション看護師認定者も育成されている。今後は、回復期リハビリテーション病棟に必要な認定看護師や専門看護師の育成も期待される。

療法士においては、標準的な業務手順がマニュアルとして整備され、見直し等も適切に行われている。理学療法関連の高額検査機器や最新の運動療法機器が整備され、先進的な取り組みが行われている。様々な機器の開発にも関わり、理学療法技術の発展に向けた活動が行われており、高く評価できる。療法士のキャリアラダーが作成され、教育目標を見据えた人材育成が適切に行われている。研究活動も積極的に行われ、年間 20 題ほどの発表実績があり、実習の受け入れに努力するなどもあり、魅力ある職場として人材確保にも繋がっている。患者会や旅行支援などの地域リハビリテーション活動に関わることで、退院後の生活状況の理解を深める取り組みを行っている。

MSW は、人員確保がなされたことで、患者への十分な介入に加え営業活動も可能になり、地域との連携に寄与している。歯科衛生士が口腔衛生に積極的に関与し、地域の歯科医の協力も得て入院早期の歯科治療を実現し、口腔衛生、経口摂取の推進に寄与している。管理栄養士も嚥下障害食の提供などで、チームの一員として機能している。

#### 4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院当日には多職種合同での診察が行われ、医師より疾病や障害の全体的な評価が伝えられている。その後の各専門職の評価を経て、初期カンファレンスが行われ、課題に応じたアプローチが計画され、リハビリテーション実施計画書として患者に説明されている。

日常的な患者の情報は、看護部門とリハビリテーション部門で毎朝共有され、それを踏まえて協働しての支援が適切に実践されている。毎月の定期的なカンファレンス以外にも、療法士と看護師でのミニカンファレンス、回診時などに情報共有がなされている。

自宅環境の評価等、退院に向けた課題の抽出が適切に行われ、実際的な指導・支援が行われている。家屋評価では多職種が訪問して充実した評価、指導が行われ、就労や外出等、退院後の社会生活についても検討されている。退院後の生活の把握についても組織的な対応を始めており、治療介入の成果を確認し、さらなる質の向上に繋げることを期待したい。

## 評価判定結果

1	良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	
1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	A
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	A
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	A
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	A
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	A
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	A
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	A
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	A
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	A
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	A
1.4.2	在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している	A
1.4.3	在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	A

## 2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	A
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	B
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	S
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	A
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.P	理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.P	理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.P	理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	S
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.0	作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.0	作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.0	作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.S	言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.S	言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.S	言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	A
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A

2.5	回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮	
2.5.1	関連職種は役割・専門性を発揮している	A
2.5.2	関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.5.3	関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.5.4	関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
3	チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践	
3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	A
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	B
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	A
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	B
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.4	在宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	A
3.4.2	在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	A